柏原小学校　道徳通信

ほっと ハート

令和２年１２月１１日

第１４号

柏原小学校　道徳部

ほっとコラム

マナーと思いやり

〇年〇組担任　〇〇　〇〇

私はこの名前の通り、物心つく前から父親の背中に背負われいろいろな山に登って(?)きました。高校では山岳部に入り、いろいろな山に登りながら、山登りにはマナーがあるということを改めて学びました。例えば、「すれ違う人に『こんにちは』とあいさつする」というものです。このマナーが初めはとても不思議でした。近所の人ならともかく、道で初めて会った人にはあいさつをしたことがなかったからです。でも、知らない人でも同じ山に登る仲間どうしですから、あいさつをすればお互いになんとなく気持ちがよくなると思います。声をかければ「この先、道がぬかるんでいて危ないですよ」とその先の道の情報を教えてもらえるかもしれません。めったなことではありませんが、遭難してしまった時の目撃情報にもなります。

他にも、登り優先、ごみは持ち帰る、登山道を守る、などのマナーが山登りにはたくさんあります。でも私は、いろいろなマナーがあっても窮屈だなと思ったことはありません。なぜかと考えたときに、それらはすべて「思いやり」につながることだと思ったからです。つらい登り坂も「こんにちは」「お先にどうぞ」「この先の景色がきれいですよ」と声をかけてくれる人がいると元気が出るような気がします。ごみを持ち帰ったり、決められた登山道を歩いているおかげで自然が守られ、野生動物と出会えたり、すてきな高山植物を見たりすることができます。山登りは、その山に登る人たちがお互いにマナーを守り、思いやりの心をもつことで最大限に楽しむことができるのだと思います。

では、日ごろの生活ではどうでしょうか。私は、山でも街でも思いやりの心にかわりはないと思います。ちょっとしたあいさつ、ささやかな気配りを心がけることでお互いが気持ちよく生活できるのではないでしょうか。日々忙しく心に余裕がなくなりがちな今だからこそ、私も改めて自分の心に問いかけ、日ごろから思いやりの心をもって行動していきたいと思いました。

各学年の実践より　今回は、３年生の授業を紹介します。

「黄色いかさ」（規則の尊重）

〇ねらい：みんなが使う物を大切にしようとする態度を育てる。

〇教材の内容について

改札口にあるだれでも自由に使える黄色いかさを使った大助は、母親に注意されてもそのかさを返しませんでした。ある雨の日、かさがなくて困っているおばあさんから黄色いかさがないことを聞いた大助は、家へ黄色いかさを取りに走り出したというお話です。

〇授業では…

みんなの使うものは大切にしなければならないということは、多くの子供は理解していると思います。しかし、実際は自分勝手な使い方をしていたり、次に使う他の人のために大切に使おうとする気持ちが欠けたりしがちです。今回の授業では、かさを返さなかった大助の自分勝手な思いに気づくとともに、おばあさんの姿を見たときの大助の心の中を考えることで、かさを返さなかったことに対する大助の気持ちを感じ取れるようにしました。授業の終わりには、みんなで使うものを使うときにはどんなことに気を付けたらよいのかということを考えました。児童からは、「使い終わったら返す。」「次に使う人の気もちを考えることが大切。」「自分の物ではなくみんなが使う物だと考える。」などの意見が出ました。

- みんなのものを使うときに大切にあつかおうと思ってきたけど、次の人の気もちを考えたことはなかった。これからは次に使う人の気もちを考えて使いたい。
- 図書室でひみつシリーズの中にゾロリが入っていて、元の所に戻してあげました。あった場所に戻すことは大切だなと思いました。
- 大切にできていなかったかもと思いました。友達が時々している、そうじ用具をちゃんと入れなかったり、遊具をひとりじめしたりするのは、ちがうと思いました。

〇ご家庭へ

みんなの物を使うルールを守ることは重要なことです。そのためにも、みんなで使う物を大切にしなかったり、ルールを守らなかったりしたときに、他者にどのような影響が及ぶのか相手の立場を推察していく経験が欠かせません。

ご家庭でも、買い物や旅行などの機会だけでなく、折をみて公共のルールやマナーなどについて「どうして守ることが大切なのか」というルールやマナーの意義について、具体例を通してお子さんといっしょに考えていただきたいと思います。